

第6回宝塚市議会意見交換会記録 第3部

※ この記録は、市民発言者と議員の意見交換の様子について、書記として参加した議員が記録したものを元に作成しています。

「自然の家を中心とした西谷地区の活性化及び農関係施策について」

市民 宝塚の小学校から高校まで通った元教員で、キャンプカウンセラー、農を語る会の会員。自然の家の2年間の休所が残念。自然の家の活性化施策として指定管理者に年間4千万円の予算が指定管理料として支払われているが、一括して指定管理者が担うのではなく、デパートのテナント方式で、人を呼べる企業などの団体に分割し、場所は無償貸与してはどうか。委託される民間事業者としては、例えば、①乗馬を活用した障がい者に有効なホースセラピー、②本館の渡り廊下の耐震補強時のH型柱または連絡通路のY型柱を使用した、今流行のボルダリングやアスレチック、③市民大学などさまざまな企画。それらを各企業に任せてみてはどうか。里山の整備技術等の指導を行えば、西谷地区の里山整備にもつながり、人口交流につながる。ビジョン委員会が新たな動きをしていて、補修から何から全てできる企業を見つけている。

議員 行政は早期再開を目指している。分割とは？

市民 乗馬なら広場か県の土地。遊歩道でツリーイング。アスレチック。食堂でジビエ料理を提供。バーベキューコーナーも任せる。

議員 テナントのようにシェアする場合、事務所は必要なのか？自然の家は、あくまでも社会教育に資する形での活用を目的としている。発言者の提案は目的に沿っており、可能かもしれない。しかし、耐震化を図るための柱にボルダリング機能を付けるというのは一定の話し合いが必要である。指定管理者が複数にわたるというのも、今後の課題となるのでは。市民大学はNTN跡地にできるので連携もできる。

市民 宿泊施設改修は業者に任せ、民営化を。農泊を活用すれば、夕食も提供できて、夜も楽しめる。

議員 社会教育施設なので、利益は求められない。また、宿泊施設も使えない。ひところ人気があったが、丹波少年自然の家が出来て人気下がった。現在は閉所し、

地域に試行してもらっている。今後、大胆に変換するとき、行政の予算投入が必要だろう。地域が関与する希望もあり、思い入れがある。

また、制約の関係でレストランができない。宿泊施設もない。

まちおこしは「地元の尽力」「資金提供」「若者の頑張り」が必要だ。若者、よそのものという視点が必要。地元の人たち（ビジョン委員会）がどこからお金を調達するのか。分割して専門業者に任せた場合、大きな指定管理者が必要となる。まちおこしは、大胆に変換ではなく、小さなことの積み重ねではないか。

市民 資金投入を決めるのは議会。まず最優先はシャワー棟をつくること。トイレ改修もどうか。否定的でなく、一歩前に進めなくては。

議員 社会教育施設というしばりの規制緩和も検討しないといけない。集落ごとでなく、「西谷は一つ」になってもらうことも必要だ。

市民 それは「NPO法人NISHITANI」でできる。また、運営団体もめどがある。しかも、市の補助金は使わないでよい。ボルダリングやツリーイングは人気があり、人が呼べる。周遊道路は広げてほしい。

「住宅街の狭い道路に消防車が救急車を帯同して入って来た。火事？」

市民 場所は「支多々川」の右岸（中州2丁目）で弁天橋の近く。支多々川右岸の市道沿いの住戸は市の要請により、市道よりセットバックし、道路幅を広くして自宅を建築されているが、ほかの住戸の前面道路（市道）が狭いままであり、南口方面から車で弁天橋を渡って右折すると、弁天橋の欄干が引っかかって1回では曲がれず、切り返す必要があり、このようなことでは消防車も救急車も入ってこれない。消防に聞くと、消防車は小型のものは曲がれるが、救急車は無理、ただし逆瀬川側の県道からは入ってこれるとのこと。宝塚の道路はほぼ全て2項道路（4m未満）だが、他の場所でも同様のことが起こっているのではないか？行政はどう考えているのか。しっかりと対応してくれないと、市民は安心できない。宝塚の道路行政はあまりにも遅れている。

議員 中州地域の上流側でも同じような場所がある。4mない道路は土地購入時にセットバックしてもらおう。消防車が曲がれないとのことだが、ホースが最低でも20mは伸びる。また市道と思っているところでも、半分私道という場所もある。

議員 たしかに他市に比べて道路が狭い。なぜなら、昭和50年代、人口増加率が日

本一の時期があった。人口急増が続き、学校を1年に4校も建築した時期もあり、財源不足が影響し、道路等の都市施設の整備が遅れている。本来は家を建てる前に道路を整備するが、それでは間に合わないのので、先に小学校をどんどん建てた。特に右岸地域は未整備が多く、過去の道路政策の失敗である。生活道路の整備については、もともとは要綱で実施されていた（重点道路に関しては狭い道を広げるために市が積極的に買い取っていた）が、議員発議により条例として整備した。すなわちお願い行政から義務化されたが、阪神大震災以降は少なくなり、今は予算不足のため、この条例に基づく関連予算が計上されておらず、進んでいない。

個別案件の課題としては、可であるので、具体的に聞かせてほしい。

高松町や末成町などは道路が特に狭いが、密集住宅市街地整備促進事業により、国の事業として助成され、面的整備が実施されている。そのようなやり方もある。

「西谷地域の活性化（選手強化用公式専属プール設置、気球を揚げる、山に再生エネルギー導入）」

市民 日本は農家は大半が兼業であり、構造的に問題がある。今後の農業の消滅を心配している。西谷でも経済的にも力不足であり、今回の提案としては、地産地消の拡大促進が狙いである。

プール設置は、オリンピック選手の寺内健選手をお呼びして、温水式のプールをつくり、飛び込み、シンクロナイズドスイミング、水球を可能にして練習風景が見えるようにし、応援したくなるようにして全国から人を呼び込んだらどうか。シンクロは水中のタカラヅカである。

気球を揚げることも、土地がたくさんあるのだから可能に思う。気球は緑いっぱい田園風景にぴったりで、上空からの景色も楽しめて、地域の活性化にもなると思う。

山への再生可能エネルギー（太陽パネル・風力）導入は、林業に代わるもので、地産地消の拡大につながり、生まれたエネルギーや売電による利益を地域の林業や農業の振興に使ってほしい。

ゴルフ場もあるが、寂れたところもある。今後の利用者増加は期待できない。地産地消には役に立たず、今のまま見ていたら発展もない。

議員 プールはトレーニング用プールなのか、どのレベルのプールを提案されているのか。

市民 公式のもので、人気選手が来たら、私も見に行くだろう。

議員 シンクロナイズドスイミングについて、集客力は難しいかも。選手の誘致も難しい。

議員 気球だが、西谷の地形はかなり狭くて難しい。市街化調整区域のため、建築物にはさまざまな制限がある。また、どの程度の人が来てくれるのか、疑問である。気球は、どこからスタートするのか。

市民 細かいことは考えていない。集客のことなどわからないが、交通アクセスが良いのだから大丈夫では。

議員 西谷地域は、緑の多い地域であり、西谷の活性化をみなさんが考えていることが素晴らしい。西谷では、太陽光発電はもう実施して、小水力も検討されている。農地利用のソーラーシェアリングをしており、売電もできる。

市民 農地を潰してまでやることは、違う。

市民 ソーラーシェアリングというのは、農地を使いながらできる方法だ。

市民 西谷には木が多くあるので、温水プールを温めるのに、間伐材を燃やしたらどうかと考えたこともあったが。

議員 間伐材の利用拡大をするグループがあり、薪ストーブの利用もやっている。

市民 木を燃やすよりは、自然エネルギー利用の方が良い。ゴルフ場を出す食事には西谷産の食材が利用されているのか。

議員 調べていないが、西谷産の野菜などはある一定の量が供給できる状況にはなく、学校給食に使えばよいのだが、と考えている。

先程のソーラーシェアリングだが、休耕田ではなく、レモンやデコポンなどの果物や葉物については、太陽を一日浴びなくても育つものもあるので、西谷では6軒が利用している。

議員 発言者の西谷活性化の提案も、面白いが、自然の家という社会教育施設での制限もあると思う。

市民 西谷のビジョン委員会には色々な人がいて、実現の可能性は多いにあるので、もっと民間団体が自由に使えるように、規制緩和してほしい。